



ま ち の 達人 TATSUJIN

蒲郡太極拳同好会
会長 横山 一恵

今号は、太極拳で活躍している横山一恵さんにインタビューし、答えていただきました。

■太極拳を始めたきっかけは
平成7年に保健センターで行われた講座に参加したのがきっかけです。同好会はその仲間たちと一緒に立ち上げました。

■活動内容は
現在、会員は67人。週1回、体育センターで教室を行っています。会の仲間と一緒に新年会や誕生会、交流会、早朝稽古、旅行なども楽しんでいきます。

教室は、人と人とのふれあいや出会いの場として大切に行っています。

■太極拳の魅力は
学べば学ぶほど奥が深いこと。そして、心静かに無念夢想で太極拳を舞うと、全身にくま

なく血液をめぐらせて大変心地よい気持ちになれることです。

■太極拳で学んだことは
物の見方、考え方を学びました。例えば、誰でも必ず年をとれば老いがきますが、心は年をとらないで若々しく保つことができる、といったような考え方ができるようになりました。

■長続きする秘訣は
楽しむことでしょうか。そして、好きになることです。

■太極拳のPRを
今、ストレスを感じる人が多くなっています。ストレスに強くなるには日常生活の中でのプラス思考が大切だと思います。太極拳は、自律神経系の副交感神経が活発化されるため、全身の血流が促進されて、内臓の働きが活発になり、知らない間に足腰が強くなってリラクセスできます。意識して深く長い呼吸をすることで、心が穏やかになり、物事をよい方向に解釈できるようにになります。

■最後に
太極拳の免状に記されている言葉を皆さんに紹介します。「虚心使人進步驕傲使人落后」（謙虚は人を進歩させる、傲慢は人を落後させる。） 謝 謝

（聞き手：広報担当）

水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

篠永哲・林晃史著の「虫の味」という本があります。その名の通り、ゴキブリやカブトムシなどを食べた味の報告書です。（ちなみにこの本によると「シオカラトンボは塩辛くない」そうです。）
これは水族館の生き物でも同じです。凶鑑には食用にならないと書いてある魚はなぜ食用にならないのか、凶鑑に味が書いてない水族はうまいのかまずいのか、「虫の味」の著者もそういった疑問や探究心から自らを犠牲にして実験（試食）をしたのでしよう。
特に深海生物では、味についてまったく未知なことが多いため、その話や「虫の味」の話をして後輩の三田をあ

未知なる味

おってみると、すぐに乗ってきました。そして我々は「深海生物の味」について人体実験を始めることになりました。はじめは味に関してまったく資料のない魚の試食から始めました。しかし、三田はしだいにエスカレートして深海のヤクザ顔巨大ダンゴムシ「オオグソクムシ」や、映画「エイリアン」のモデルにもなった「ウミグモ」、飼育が難しく水族館での展示は幻である「メンダコ」など、見た目から食欲が減退して2、3歩後ずさるような生き物を次々に試食していききました。まさにゲテモノ食い。しかも、次の日もケロリとした顔で出勤して「まずかったですよ」と笑顔で一言。深海からはるばるやってきた不思議な生き物たちはまさか自分が食べられるとは思ってもみなかったでしょう。
一人暮らしの飼育員のお兄さんだからこそできることなので、皆さんはおいしい魚だけを食べてください。